

令和8年度 校内研究の概要

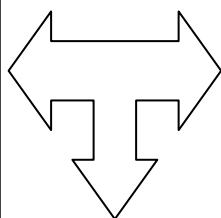
1 研究主題と研究の全体構想

<学習指導要領の趣旨>

- 「生きる力の育成」知・徳・体
- 道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指す
- 健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育

<千葉市の教育>

- 「わかる授業」の推進に向けた新しいスタイルの学校教育の確立
- 思いやりの心の育成と一人一人の夢の実現
- 生涯にわたり健やかに生きるための土台の育成



学校教育目標（研究主題）

**創造性豊かな心とたくましい心
を持ったあすみっ子の育成**

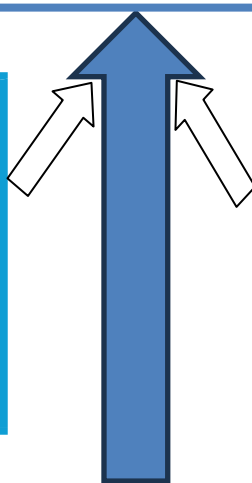
～心と体をつなぐ教科体育指導『あすみスタイル』の充実～

<子供の実態>

- 明るく素直な子供が多い
- 係活動や与えられた課題に対しては意欲的に責任をもって取り組む
- 自分のよさや可能性を友達との関わりの中で発揮し、主体的に物事に取り組むことが苦手
- 新体力テストにおいて、種目によって県平均を下回る（長座・立ち幅）

<家庭や地域の願い>

- 安心して学校生活が送れる教育環境
- 学校・家庭・地域での様々な場で学びの楽しさ、面白さ、喜びを味わえる時間の確保
- 保護者、地域の声に耳を傾け、連携して歩調を合わせられる安全・安心な学校



教科体育部会

- 教科体育の充実を図り、夢中になって運動を楽しめるようにする。
- 心と体をつなげられるような教科体育指導『あすみスタイル』の充実を図る。

研究の視点 心と体をつなぐ教科体育指導『あすみスタイル』

- 視点1 運動がもつ楽しさを十分に味わえるような手立ての工夫
- 視点2 子供の心と体のつながりを見取るめあてや振り返りの工夫

2 主題設定の理由

(1) 時代の要請から

現代社会は、人工知能（AI）、ビッグデータ、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」であるといえるほど劇的に変わる状況が生じつつある。令和3年に中央教育審議会から出された答申には、「このように急激に変化する時代の中で、我が国の学校教育には、一人一人の子供生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の作り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。」と示された。小学校学習指導要領（平成29年3月）では、一人一人が主体的・創造的に生き抜いていくために、基礎的・基本的な内容を確実に身に付け、自ら学び自ら考える力を育成することにより、「確かな学力」を育み、「豊かな人間性」や「たくましく生きるための健康や体力」などどのように社会が変化しても必要となる「生きる力」が求められている。また、本市の教育施策に明記されている教育目標「自ら考え、自ら学び、自ら行動できる力をはぐくむ」ために、「わかる授業・楽しい教室・夢広がる学校づくり」の充実を図っていく必要がある。

そこで本校では、一人一人が自分のよさを認め、友達と関わり合いながら学習に主体的に取り組むことで、創造性豊かな心とたくましい心という「生きる力」をもった子供を育成できると考え本主題を設定した。

(2) 千葉市の教育課題から

千葉市教育委員会から発出されている「令和8年度 千葉市の学校教育課題 21世紀を拓く」では、千葉市の今年度の課題として4点挙げている。①課題解決を充実させるために、児童生徒個々の的確な実態把握を基に、運動の特性を考慮したうえで、指導内容を精選し、個に応じた手立てを講じることができるようにする。②児童生徒が運動を通して達成感や成就感をもち、運動の楽しさをより深く味わうとともに、健康の保持増進や体力向上の大切さに気付き、学習したことを実生活に生かすことができるよう工夫改善を図る。③運動の特性や発達段階に応じた学習過程の中で、ICTを効果的に活用し、指導の充実を図る。④共生の視点を踏まえた指導内容や指導方法の工夫改善に努める。の4点である。中でも、②④において記述されている、友達と協力して得られるできた喜びである達成感や、課題解決の喜びを感じる成就感をもてるようにすることや、友達を助けたり、考えを認めたりする共生の視点を踏まえた指導の工夫を行うことが、本市の課題を解決するとともに、本校の学校教育目標である子供像に近付けることにつながると考え、本研究主題を設定した。

(3) 子供の実態から

本校の子供は、明るく素直な子供が多い。進んで挨拶をしたり、係活動に意欲的に取り組んだりする子供も多く見られる。また、高学年になると奉仕活動に取り組んだり、学校をより良いものにしようと委員会活動を精力的に行ったりしており、充実した学校生活を送ることができている。体育学習においては、運動が好きな子供が多い。体力面では、各学年の新体力テスト結果を見ると、種目によって差が大きく、力強さ（握力）や粘り強さ（20mシャトルラン）は得意な反面、柔軟性や瞬発力（立ち幅跳び）に課題が残る。

自分の思いを素直に言葉にできなかったり、友達の考えを認めたり受け止めたりすることができず、学校生活に不安を覚えている子供も見られる。また、教師から与えられた課題に対しては意欲的に取り組むことができるが、自分のよさや可能性を友達との関わりの中で発揮し、主体的に物事

に取り組むことは苦手である。

そこで、与えられた課題に意欲的に責任をもって取り組むよさを生かし、できたことや頑張ったことが心の成長につながっていることを子供自身が自覚することができるようにすることで、教科指導でできるようになったことと心の成長につながり、研究主題を解明することにつながると考えた。

3 研究主題について

《学校教育目標・研究主題》

創造性豊かな心とたくましい心を持ったあすみっ子の育成

～心と体をつなぐ教科体育指導『あすみスタイル』の充実～

本校の学校教育目標かつ研究目標は、「創造性豊かな心とたくましい心を持ったあすみっ子の育成」である。一人一人の子供が、かけがえのない存在として大切にされ、内在的可能性の開発を日々の教育活動をもって具体的に保証し、一人一人の成長を支援する学校運営・学年経営を進めることとした。

(1) 「創造性豊かな心」「たくましい心」とは

創造性豊かな心とは、相手の考えを共感的に受け止めたり、道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して相手の思いや考えを感じたりする心である。また、相手の立場に立ち、人の痛みを考え感じ取れる思いやりの心や、社会の連帯意識をもち、公共のために尽くす心でもあると捉えている。

たくましい心とは、自らの思いをさらにより方向へと価値付ける復元力と捉える。粘り強くやり抜く強靱な意思と行動力を持ち、自ら生活を切り拓く創造力を働かせ、自らの課題を見付け自力解決する力をもった状態であると定義する。また、健康で強い体力を養うことで、何事にも前向きに取り組むことができる心である。

(2) 目指す子供像

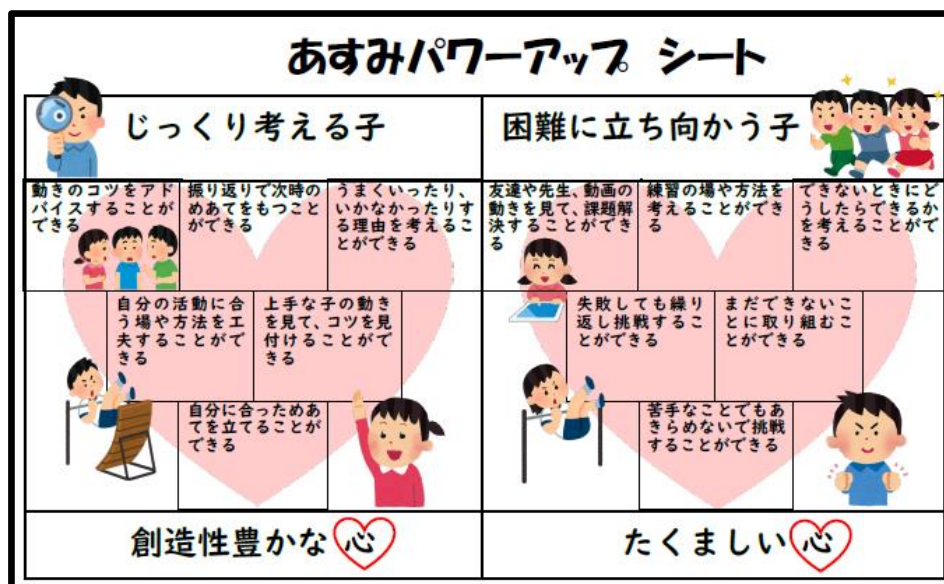
上記の「創造性豊かな心」と「たくましい心」を持ったあすみっ子とはどのような姿なのか、以下の表にまとめた。また、体育科の中でどのような姿で表出するか、実際の指導や学習指導要領の3つの資質・能力を基に整理した。

あすみ小が目指す具体的な子供像					
目標	目指す子供像	学校生活全般での具体例	資質能力	体育科の中での具体例	類別
創造性豊かな心	心 を 持 っ た 子 思 い や り の 心 を 持 っ た 子	・命を大切にすることや 思いやりの心を持った子	主体性	○友達の様子を見て、前向きな言葉をかけている。 ○「どんまい!」「一緒にやろう!」と声をかけている。 ○友達の頑張りを認めている。 ○「やったね!」「よかったね!」と友達に声をかけている。 ○友達のアドバイスを受け入れている。 ○場や用具の安全に気を配っている。	アドバイス 声かけ
		・「ありがとう」が言える子	思弁表	○アドバイスをうける時に、「○○したらいいんじゃない。」と前向きな言葉をかけている。 ○動きのコツを友達に教えている。 ○苦手な子に、「○○するといひよ!」とアドバイスしている。 ○友達の動きを称賛している。	
		・美しいものに感動する子	主体性	○勝敗を受け入れている。 ○友達のよい動きを見て、褒めている。	認め合い
	考 え る 子 じ っ く り	・授業に集中し、友達の意見 に耳を傾けることができる子	思弁表	○上手な子をよく見て、動きのコツを見付けようとしている。 ○友達や先生、動画の動きを見て、自分との違いを考えている。 ○自分で練習する場を選んでいる。 ○活動に合う場や方法を考えている。	よく見る 観察する
		・自分の考えを表現できる子		○めあてを考えたり、振り返り自分や友達のよかったところを考えている。 ○うまくいったり、うまくいかなかったりした理由を考えている。 ○めあてに対して、今日の振り返りを行い、次時のめあてを考えている。 ○写真や動画等を使って、次の課題について考えている。	めあての設定 振り返り 選択・判断
		・自分の意見を述べるこ とができる子		○作戦タイムなどで、「○○するといひじゃない。」とアドバイスしている。	アドバイス (やさしい声でリンク)
たくましい心	や り ぬ く 子	・失敗してもすぐに立ち直 れる子	主体性	○今できていることを伸ばそうとしている。 ○めあてに向かって最後までやり遂げようとしている。 ○得意・不得意に関係なく取り組もうとしている。	やり続ける姿
		・夢や希望をもち、その実 現に向けて努力する子	思弁表	○自分で目指す課題や姿を考え、それに向けて活動している。 ○自分の課題を考えることができる。	課題解決している姿
	立 ち 向 か う 子 困 難 に	・何事にも積極的に挑戦し 自分の世界を広げること のできる子	主体性	○繰り返し取り組んでいる。 ○苦手なことにもあきらめずに挑戦している。 ○失敗しても何度でも取り組んでいる。	挑戦している姿
		・できないことを考えるよ り、どうしたらできるか を考えられる子	主体性	○自分の記録よりも上を目指するために、活動の場や練習方法を工夫している。 ○まだできない技に挑戦している。 ○ゲームで負け続けたときに、どうしたら勝てるかを考えている。	メタ認知
			思弁表	○自分の動きを見て、課題解決しようとしている。	
		・自分の気持ちを前向きに コントロールできる子	主体性	○不安な気持ちを乗り越え、苦手なことにも挑戦している。	できないことへの克服

4 副題について

(1) 心と体をつなぐとは

運動がもつ楽しさに触れ、できた喜びを味わうような教科体育指導を行えるようにした上で、目に見えない心と、体育科で見取る3つの資質・能力のうち思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等が表出している姿を『あすみパワーアップシート』を使って、教師が見取るとともに、子供自身がめあてや振り返りにも活用できるようにする。そうすることによって、子供自身が自身の心の成長を感じ取ることができるようになり、目に見えない心と教科体育で培うべき資質・能力がともに育ち、心と体がつながって成長していくことができると考えた。



(2) 教科体育指導の充実とは

平成10年3月に千葉市教育委員会から発行された「『めあて学習』の実践」では、体育学習を進めるポイントとして以下の5点を挙げている。①自発性、自主性の重視 ②課題解決的学習の重視 ③弾力的な学習過程 ④豊かな人間性の重視（思いやり・認め合いなど） ⑤個に応じたルール・場の工夫 この考え方は、今日に至るまで継承され、千葉市の体育としての根幹をなしている。先に挙げられた5点は、本校が心と体をつなぐ教科体育指導「あすみスタイル」で目指すものと合致している。特に、①の自発性、自主性の重視については、運動がもつ楽しさ（機能的特性）を明らかにし、子供たちが面白そうだ、やってみたいなどという内発的動機付けを基に②の課題解決的学習へとつなげていくことが求められている。本校の研究では、心と体をつなぐ教科体育指導『あすみスタイル』の充実を図ることで、体育科で目指す「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する」ことにつながると考える。

(3) 『あすみスタイル』とは

本校が目指す子供像は、「『創造性豊かな心』『たくましい心』を持ったあすみっ子」と定義している。心という見えないものを、いかに具体的に表出させ、教師が見取り、肯定的に評価をして次時の活動や意欲につないでいくかが大切であると考え。令和7年度の研究では、「学校適応感尺度アセス」を用いて、子供の心の変容を見取った。心の変容を見取ることができるようになった一方で、体育科としての姿とつなげていく必要があることが明らかになった。

そこで、本校では、学校教育目標で目指す子供像と、体育科で身に付けさせたい資質・能力を整理し、3(2)で示した子供像にまとめた。今年度の研究では、見えない心と具体的な体育科の姿をつなぎ、指導と評価を行っていくことを『あすみスタイル』と名付け、学校教育目標を具現化する方法を模索していく。



5 視点について

視点1 運動がもつ楽しさを十分に味わえるような手立ての工夫

子供一人一人が、運動がもつ楽しさを十分に味わえるよう、教科体育における手立てを工夫する

○学習過程の工夫

低・中・高学年の2年間のまとまりで捉えた年間指導計画から、ねらいを1つに絞ったり、発展的な学習に繋げたりと、運動がもつ楽しさ（機能的特性）や価値に十分に触れられるよう柔軟に学習過程を設定する。

【例1】 低学年「走の運動遊び」

領域	走の運動遊び	
	1年生	2年生
単元名	低い障害物を用いたかけっこ	低い障害物を用いたリレー
ねらい	いろいろなコースを作って楽しもう	いろいろなコースでリレーをして楽しもう
学習内容	グループで低い障害物を用いたコースを作り、いろいろな方向に走ったり、低い障害物を走り越えたりすることを楽しむ。	いろいろな間隔に並べられた低い障害物を走り越えながら、手でのタッチやバトンの受け渡しをするリレー遊びをして楽しむ。
働かせたい見方・考え方	する (いろいろなコースを走って楽しむ) 見る (友達が作ったコースを見て、自分が作るコースの発想を得る)	知る (障害物の置き方によって走り越し方や楽しさが変化することを知る。) 支える (走っていないときに、チームの応援をして勝敗を競い合う楽しさを味わう)

※2年間のまとまりの中で、運動に対しての様々なかわり方を味わうことができるように設定する

【例2】 5年生「ハードル走」

めざす自分の姿に近付くために自己の記録を達成する楽しさと競走する楽しさを交互に味わえるようにした学習過程

	1	2	3	4	5	6
ねらい	自己の記録の伸びや目標とする記録の達成を目指し、ハードルをリズムカルに走り越えたり、ルールを決めて競走したりして楽しむ。					
0	オリエンテーション	主運動につながる運動 ・第1ハードルリレー（フレキシブルハードル） ・一歩ハードル（ペットボトルハードル）				
		ねらい① 自分の記録に挑戦して楽しむ。	ねらい② 競走して楽しむ。	ねらい①	ねらい②	
▼ 45		自己の記録の伸びを目指し、練習の仕方を工夫して記録に挑戦する。	個人対個人の競走をして楽しむ。	競走して感じた課題をさらに練習し記録に挑戦する。	自己の記録を伸ばしてきた成果を出し、競走して楽しむ。	

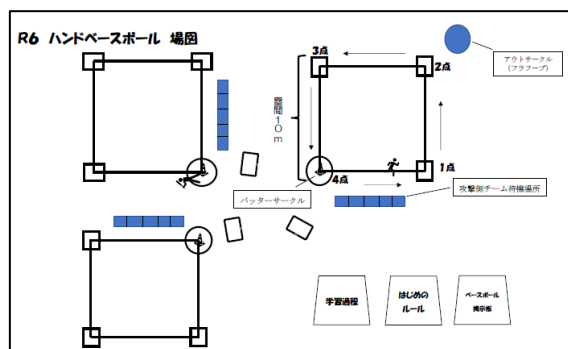
○場の工夫

【例1】5年「ハードル走」 子供の実態に合わせたコース設定

運動が苦手な子供も取り組み易くなるよう、低いハードルを用いたコースを設定した。これによって恐怖心を和らげ進んで運動に取り組むことができるようにする。



【コース設定の例】



【得点を取り易くする場の例】

【例2】3年「ハンドベースボール」 得点を取り易くする場

静止したボールを打った後に全力で塁間を走り、得点を取り易くする。

○用具の工夫

【例1】6年「フラッグフットボール」

子供が考えた作戦に合うボールの選択し、思考力、判断力、表現力等を育成する

①ゴム製で良く弾む。他のボールに比べ小さいので、捕りにくい。

<フラッグフットボール協会寄贈ゴムボール>

②大きさが最も大きく、空気を抜くと捕りやすい。

<モルテンフラッグフットボールミニ>

④丸い形なので、とても投げやすく捕りやすい。

<ミカサハンドボール 1号球>



③大きさは②に比べ、少し小さいが、合皮製なので、しっかりと握れる。

<Evernew フラッグフットボール (小学生用)>

【用具の工夫の例】

○かかわりの工夫

【例1】グルーピングの工夫 (等質・異質グループの意図的な編成)

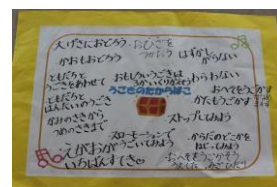
【例2】学級全体で共通言語を活用した伝え合い活動

【例3】子供の気付きを基にした掲示板

低学年の表現・リズム遊びでは、子供が考えた動きの感じや即興表現に没頭するための気付きを共有するために「うごきのたからばこ」を設定する。そうすることで互いの動きを見合うポイントが明確になり、友達同士で称賛し合ったり、動きを真似したりすることができるだろう。

【例4】タイムシフトカメラや動画を使ったアドバイス活動

【例5】今日の MVP



視点2 子供の心と体のつながりを見取るめあてや振り返りの工夫

運動がもつ楽しさに触れ、できた喜びを味わうことができるようにしていく中で、子供が学習で行ったことと心の成長を感じることができるようにするとともに、教師も見取り肯定的なフィードバックすることで心と体をつなぎ、目指す子供像に近付けるようにする。

【例1】心と体をつなぐ「あすみパワーアップシート」

学校教育目標で目指す子供像を、子供と教師が同じ姿を共有することで目指す姿が明確になるとともに、めあてや振り返りで活用することで、体育科で表出した姿と見えない心をつなぐことができ、学校教育目標を具現化することにつながるだろう。

あすみパワーアップ シート			
じっくり考える子		困難に立ち向かう子	
動きのコツをアドバイスすることができ	振り返りで次時のめあてをもつことができる	友達や先生、動画の動きを見て、課題解決することができる	練習の場や方法を考えることができる
うまくいったり、いかなかったりする理由を考えることができる	自分の活動に合う場や方法を工夫することができる	上手な子の動きを見て、コツを見付けることができる	できないときにどうしたらできるかを考えることができる
自分の活動に合う場や方法を工夫することができる	上手な子の動きを見て、コツを見付けることができる	失敗しても繰り返し挑戦することができる	まだできないことに取り組むことができる
自分に合っためあてを立てることができる	自分に合っためあてを立てることができる	苦手なことでもあきらめないで挑戦することができる	苦手なことでもあきらめないで挑戦することができる
創造性豊かな心		たくましい心	

活用のイメージ

①学習のはじめ

今日の学習で特に頑張っていたと思うことは、「上手な子をよく見て、動きのコツを見付けること。」です。前回、うまくいかないときに、「どうしたらいいんだろう。」と悩んでいる子も多かったので、ぜひ、よい動きの子を見付けて、真似してみてくださいね！「パワーアップシート」を見ると、これはじっくり考える子に近付くことだね。皆には「創造性豊かな心」を育ててほしいな。

②学習のまとめ

〇〇さんは、振り返りで「～ができました。なぜかという、〇〇さんの▲▲を真似したからです。」と発表していました。（パワーアップシートを見ながら）体育の力もついたし、じっくり考えられるようになってきたね。また一歩創造性豊かな心がパワーアップしたね！

【例2】発達段階に応じためあてや振り返りのモデルの提示

学習を通して、児童が技能面の伸びだけでなく、自ら課題を見付け改善しようとする思考や、仲間と関わりながら粘り強く学び続ける姿など、学習の過程に内在する「心の動き」も見取るようにモデルを提示する。

ふいかえいモデル			
  	〇〇ができるようになった。	5だんを かいきやくとびで とべるようになった。	5だんを かいきやくとびで とべるようになった。
	〇〇をしたからだと思う。	手のつき方を かえたからだと思う。	これまで手前についていた手をおくにつくようにかえたからだと思う。
	次は〇〇ができるようになりたい。	次は着地がびたりと止められるようになりたい。	次は着地がびたりと止められるようになるために、着地のコツを見つきたい。

【例3】心と体をつなぐ言葉バンク

書く型を示しても、児童が表現するための言葉のストックがないと、自分の学習過程を適切に言語化することができない。そこで、振り返りを書く際に活用できる言葉を「言葉バンク」として提示する。例えば、「〇〇とくらべると」「〇〇するとうまくいくことに気づいた。」「〇〇くんから〇〇というアドバイスをもらった。」「〇〇することを試した。」「〇〇を繰り返し練習した。」など、思考・判断・表現や学びに向かう力の評価につながる言葉を集め、初めは選びながらも、実際に使っていくことで、自然と振り返り言葉として自分の中で使っていくように定着させていきたい。

【例4】学習カードの工夫

6 研究の評価方法

(1) 教科体育としての変容

<量的変容調査 質問紙法（5件法）>

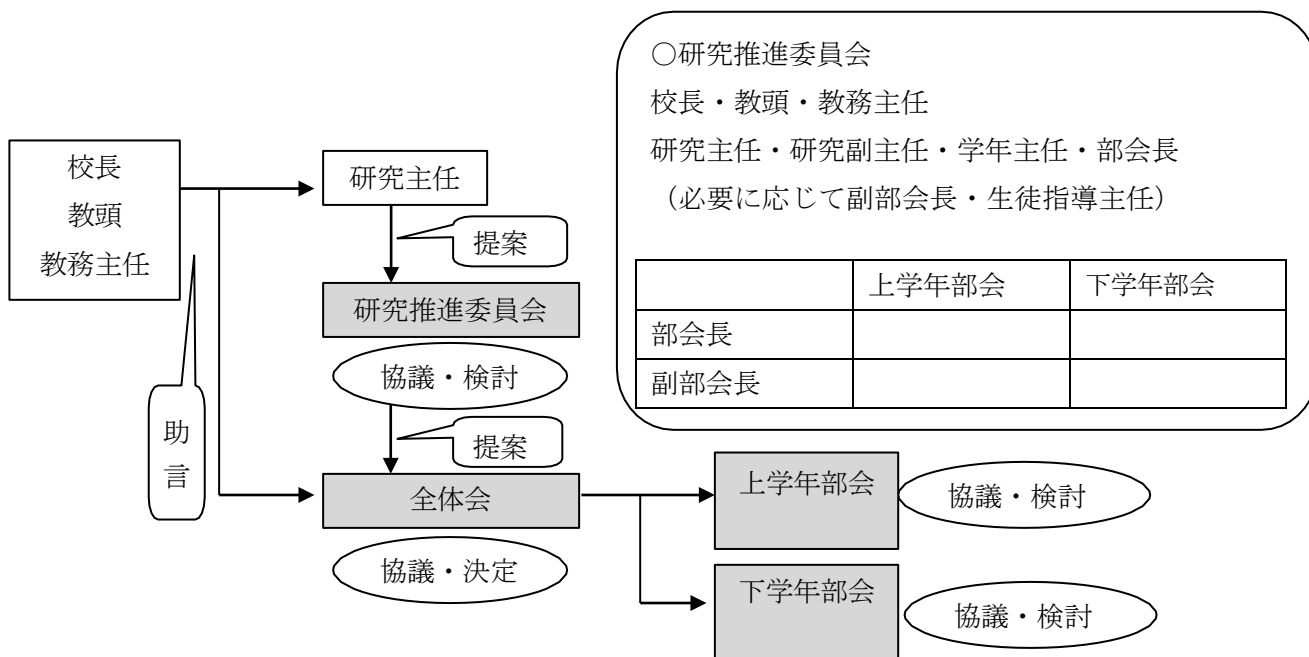
- 運動好きな児童の変容
 - 自分の力に合っためあてを立てることができる
- <質的変容調査 記述の質的変容>
- めあて・振り返りの変容

(2) 研究主題に迫れたかの変容

<量的変容調査 質問紙法（5件法）>

- 創造性豊かな心（じっくり考える子）が育っていると思う
- たくましい心（困難に立ち向かう子）が育っていると思う
- 学校適応感尺度（アセス）の6因子
 - ・生活満足感 ・教師サポート ・友人サポート
 - ・向社会的スキル ・非侵害的關係 ・学習的適応

7 研究の組織と進め方



(1) 部会は上学年部会・下学年部会とする。

(2) 各部会では相互に協力し合い、部会長を中心として、研究実践の日常化や推進を図る。

(3) 授業展開は6月1回、9月1回、公開研究会で4～6展開とする。

※全体会后にアンケート用紙を配付し、4月14日（火）までに提出する。（学級担任全員）

14日（火）アンケート回収→ミニ研推で仮決定→管理職へ報告し決定

15日（水）授業者へ報告

16日（木）部会長・副部会長決定 → 模擬授業実施 → 部会で単元決定・実態調査項目検討

※部会長と副部会長は同学年で務めることのないようにお願いします。

8 研究日程

月	日	曜	会議名	内容	場所	備考・その他
4	3	金	研究推進委員会 (以下、研推) ①	今年度の研究の方向性についての説明 内容の検討	校長室	
4	10	金	校内研修 (以下、校内研) ① 全体会	今年度の研究について 研究体制・研究日程の検討 指導案執筆者・講師招聘授業の決定	探求ラボ	
4	16	木	校内研② 部会	公開の単元を決定する・実態調査の内容検討	探求ラボ	
5	14	木	校内研③ 全体会	【講師招聘】 「未定」	探求ラボ	校内講師 高浦保夫先生
5	21	木	校内研④ 全体会	校内提案授業（研究主任）の指導案検討	探求ラボ	
5	28	木	救急救命講習 全体会	心肺蘇生法・AED の使い方	アリーナ	緑消防等× 校内講師
6	4	木	校内研⑤ 授業研究	校内提案授業（研究主任）授業研究	未定	
6	25	木	校内研⑥ 全体会→部会	公開授業の実態調査考察・手立ての検討	探求ラボ	
7	16	木	研推②	紀要の形式提案・公開研究会の流れ確認等	校長室	
7	17	金	校内研⑦	部会での指導案検討（学体研との指導案検討 の前に共通理解を図る）	各教室	
7	22	水	AM 校内研⑧ 全体会→部会	部会での指導案・環境整備	探求ラボ →各教室	学体研参加 (委員長・副委員長・ 事務局・委員)
8	25	火	校内研⑨-Ⅰ	指導案検討・環境整備	各教室	学体研参加 (委員長・副委員長・ 事務局・委員)
8	26	水	校内研⑨-Ⅱ	指導案検討・環境整備	各教室	
9	4	金	校内研⑩	事前授業（紀要用）の指導案検討	探求ラボ	
9	10	木	校内研⑪ 全体会→部会	公開研究会の指導案検討	探求ラボ →各教室	
9	24	木	校内研⑫	事前授業の授業研究	未定	
10	1	木	研推③	公開当日の流れ確認	校長室	
10	15	木	校内研⑬ 部会	授業準備（学年で事前実施する計画や掲示物等 の準備）	各学年WS	
10	29	木	校内研⑭ 部会	授業準備（学年で事前実施する計画や掲示物等 の準備）	探求ラボ	

11	26	木	校内研⑮ 全体会	公開研究会当日のリハーサル	アリーナ	
12	2	水	💎 💎 公開研究会当日 💎 💎			
12	17	木	校内研⑯ 全体会→部会	公開研究会の振り返り共有・部会ごとに成果と課題まとめ	教室	
1	13	水	研推④	来年度の研究に向けて	校長室	
1	14	木	校内研修	総合展参加	千葉市美術館	
2	25	木	校内研⑰	来年度の方向性を決定	職員室	